

## あしもとツーリズムの世界

観光、ツーリズム、その呼び方は変わっても、外からお客様（ビジター）に来てもらうという目的は同じです。海や山を訪れて風光明媚な景色を楽しむこと、またそこにしかない温泉や食事という普段の生活を離れた、サービスを受ける側にまわる、おもてなしを受けるといふ非日常が人を惹きつけてきました。

しかし、何も無いようであり、どの地域にも必ずある地元の歴史。それを発掘体験するのが「あしもとツーリズム」です。そこでまず、ぜひ来ていただきたいのが、全国に13カ所あるハンセン病療養所の中の一つ「菊池恵楓園」です。

菊池恵楓園は1909（明治42）年、現在地に九州癩療養所として設立しました。その根拠となったのは、1907（明治40）年に制定された「癩（らい）予防に関する件」という法律です。以後、1931（昭和6）年の「癩予防法」、1953（昭和28）年「らい予防法」と法の変遷はありましたが、1996（平成8）年にらい予防法が廃止されるまで、隔離政策は続けられました。ハンセン病と患者・入所者に対する差別の歴史に関する貴重な資料を保存研究するとともに、人権について学ぶことができる場所として、菊池恵楓園の社会交流会館（歴史資料館）があります。



社会交流会館（歴史資料館）

菊池恵楓園は国立療養所ですが、近年はさまざまな行事を通じて地元住民を始め、見学や研修に訪れる多くの人たちとの交流が進んでいます。また、園内には、かえでの森こども園という保育所が作られました。

ここまでの交通アクセスも恵まれています。熊本市内からの公共交通機関として、熊本電鉄の御代志駅がすぐ近く（徒歩5分）にあります。この路線は、九州新幹線上熊本駅から熊本電鉄北熊本駅での乗り換えで、スムーズに來ることができます。この電車、車両内に自転車を持ち込めることも大きな魅力です（時間指定有り）。



熊本電気鉄道  
（くまでん、菊池電車、きくでん  
と呼ぶ人もいます）

また、JR 豊肥線光の森駅からは、合志市のコミュニティバス「レターバス」を利用することも可能です。



合志市制作「合志市レターバスMAP」より

その熊本電鉄御代志駅から約1 kmの距離には、西合志図書館、合志マンガミュージアムがあります。

西合志図書館は蔵書数や一般的な図書館サービスだけでなく、豊富な郷土資料とともに、天文台を併設していることも特長の一つです。その隣には今年の夏、開館したばかりの合志マンガミュージアム。7万冊の蔵書を誇ります。



合志マンガミュージアム

合志マンガミュージアムの特長は、マンガが読み放題というだけでなく、マンガを歴史と文化という観点から捉えていることです。

合志市には明治時代に作られた農民のための私塾「合志義塾」がありました。明治25年に創立、6000人という卒業生を送り出しました。その間の歴史をマンガにした『カタルパの樹』という作品は特に注目すべきものです。

また日本における紅茶製造の第一人者と言われる可徳乾三がいます。明治時代に満州・シベリアにまで紅茶の販路を拡大した人物です。

歴史をずーっと遡ると、縄文遺跡や中世の山城跡竹迫城址公園もあります。「農聖」として全国に広く知られる松田喜一が大正時代農業の実習所を最初に開設し、また太平洋戦争中には陸軍の飛行学校となった旧逓信省熊本航空機乗員養成所が置かれた黒石原。

現在、熊本地震被災のため復旧工事中の合志市総合センター「ヴィーブル」には歴史資料館とヴィーブル図書館が入っています。これまでの資料収集と展示は静かなものでした。今後は西合志図書館、マンガミュージアムとともに東と西から、よりダイナミックな情報発信

を目指すべきです。それはこれからの課題ですが、だからこそまだ原石と言っていい魅力があふれるまちなのです。

お食事、休憩場所などは、たくさんの情報が集まっていますが、現在探査中です。

自転車で移動してみればわかりますが、平坦なようできて結構起伏があるのが合志市です。しかし、それほど急峻ではないので、やはり自転車での移動がお勧めのサイクルタウン合志。

もちろん、可愛いキャラの環状バス「レターバス」と循環バスや乗り合いタクシーも意外と使えます。

合志市の歴史と文化を知ってもらうために、熊本県内だけでなく、日本中、世界中から合志市に来ていただけたら、という思いです。

なぜ、合志市か。もちろん合志市にしかないものもあります。しかし、合志市の歴史と文化を知ること、いま自分が住んでいるまちに帰ったときに、これまで気づかずにいた自分のまちの魅力を再発見してほしいのです。

その例として、合志市では他にはないだけでなく、ひょっとしたらどこにでもあるにもかかわらず、興味を惹かれることなく眠っている宝物をみなさんに提示して、見つけ方をお土産にしてもらいたいと願うところです。あしもとツーリズムの手法と一緒に開発しましょう。